

日本ブランド発信事業 活動報告書

Onsen in Japan ~ An adventurous way of exploring Japan ~

2019年9月-10月

新潟県 でゆ 出湯温泉 せいこうかん 清廣館

清野 典子

【事業概要】

日本特有の温泉文化を発信するため、フィンランド、スウェーデン、及びアイルランドで「温泉」・「秘湯」についての基礎的な情報や、実際仕事として携わっている「温泉旅館」について女将業の目線からお伝えし、近い将来、日本の温泉文化が渡航の目的の一つになってもらえる事を目指しました。

【日程】

- 09月30日: 成田発 出国 ヘルシンキ着
日本大使公邸にて関係者と歓迎夕食会
- 10月01日: 11:00 国際サウナ協会会長との意見交換会
15:00 雑誌 Kauneus ja Terveys の取材(大使館)
18:00-19:30 講演会・ワークショップ(ヘルシンキ大学)
- 10月02日: 12:30-13:45 Haaga-Helia 応用科学大学授業
17:15- 雑誌 Mondo 撮影
18:00- 講演会・ワークショップ(カイサ国際文化センター)
- 10月03日 ヘルシンキからストックホルムへ移動
スウェーデンの講演会会場 Spa Hotel Yasuragi にて関係者と
歓迎夕食会
- 10月04日 8:30-10:00 講演会・ワークショップ
10:15-11:30 プロモーションビデオ撮影
11:30-12:30 講習会・意見交換会
14:30-16:00 講演会・ワークショップ
19:00- 日本大使公邸にて関係者と歓迎夕食会
- 10月05日 10:00-12:00 メディア取材(3社)
14:00-16:00 講演会・ワークショップ
- 10月06日 スtockホルムからダブリンへ移動
- 10月07日 13:00-14:00 講演会・ワークショップ
(トリニティカレッジ)
- 10月08日 18:00-19:30 講演会・ワークショップ
(ユニバーシティー・カレッジ・ダブリン)
19:30- 関係者及び参加者とのレセプション
- 10月09日 ダブリン発ヘルシンキ経由 帰国

【講演・ワークショップ内容】

- 大まかな温泉の歴史と変遷、温泉と日本人の携わり方など、
- 温泉とは(定義・泉質)
- 日本の温泉地の紹介 名湯・秘湯・文化遺産を有する旅館・ユニークな温泉など
- 温泉でのマナー
- 温泉旅館について
- 浴衣の着方体験
- お茶とお茶菓子の体験
- 湯の花体験

ヘルシンキでの1日目、午前中は国際サウナ協会の会長さんを訪問し、意見交換をしました。森の中を進むと、雄大な湖のほとりに、素敵なサウナ施設が佇んでいます。車から一步降りると、薪の燃える心地よい香りが広がり、思わず深呼吸。こちらには、温泉の湯守ならぬ「火守」と申せばよいでしょうか、サウナを専門に管理する方が居て、朝早くから薪をくべ、全部で7つあるサウナで、それぞれ異なる温度設定をしているそうです。サウナの本場で、伝統的なサウナを見学させてもらい、サウナと温泉、形は違えど、それぞれ日常生活に深く溶け込んでいる点では、通ずるものをも感じました。日程的な理由で残念ながら本場のサウナ体験は見送りとなりましたが、機会があればぜひ一度は体験してみたいです。今回の訪問を契機として、新たな交流が生まれ、広まっていけばと願います。



午後は雑誌社の取材でした。美容と健康がテーマの女性誌で、テーマに基づいた内容に関連づけた温泉に関する質問にお答えしました。



夜はヘルシンキ大学を会場にしたセッションで、約 60 名位の参加者でした。日本の温泉に実際入ったことがある人が多く、質問も温泉そのものの誕生の仕方、泉質などに対する専門的な内容が多かったです。温泉旅館に泊まったことのある人も多く、浴衣や、布団、畳など温泉文化に関することも良く知られる印象を受けました。日本の緑茶もこちらでは割と日常的に飲まれているようですが、急須で茶葉から入れるお茶は一味違うらしく、「とてもおいしいわ」と喜んでいただけ嬉しかったです。少し心配していたおまんじゅうの餡子もすんなり召し上がっていただけ、一安心でした。日本人に似て、控えめな印象のフィンランドの方々でしたが、湯の花体験ではとても興味深そうに湯の違いを体験されていました。



2 日目、午後は大学で観光学を専攻する約 40 名の学生さんたちの授業にお邪魔しました。日本の温泉についてのお話は初めての学生さんがほとんどで、新鮮な眼差しと共に耳を傾けてくださいました。就職に役立つ実践的なプログラムを学んでいるということで、観光学の観点から見た温泉について、また、旅館での仕事を通して、お客様をお迎えする心構えや、エピソードを交えた仕事での醍醐味などについてお話ししました。



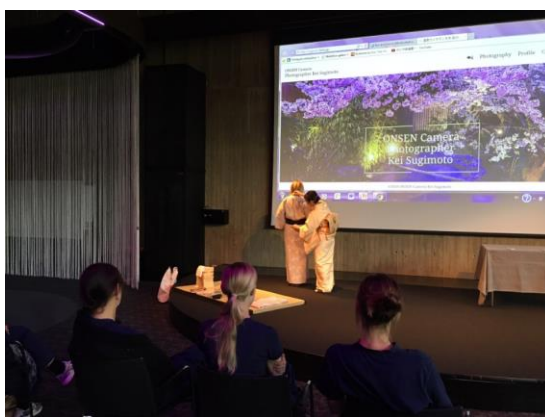
夜は一般の方に向けた講演・ワークショップで約 30 名弱の参加者で和やかな雰囲気セッションでした。この日もやはり日本の温泉体験者の方が多かったです。頂いた質問の一つに「どうして浴衣と着物の袂の長さが違うのですか」という問いかけがあり、とても印象に残りました。今までなんら不思議に思いもしなかったことに気づかせてもらいました。男性・女性別の浴衣の着方ワンポイントも「なるほどな」という表情が見られ、次回温泉に入る時、お役に立てて貰えれば良いなと思いました。湯の花体験はこちらも参加者の皆さんが興味深そうに体験されていました。



スウェーデンでの会場は、両日スパホテル「やすらぎ」を会場に開催されました。こちらの施設は 1970 年代、労働組合の保養施設として日本人建築家によって建てられた建物をリノベーションし、バルト海に浮かぶ群島と大自然に囲まれた「和」と「北欧デザイン」が融合したコンセプトのスパホテルだそうです。広大な敷地に低層階で部屋数 200 室弱、会議室 30 を有する大型施設です。ホテル到着時、日本らしい設えの中で目に飛び込んだのは、着丈短めの浴衣をシャツの上からガウンのように羽織った西洋の方々が、ビールを片手に歓談している光景。とても不思議な世界に迷い込んできた印象が今でも強く残っています。

初日は施設で働くスタッフの方を対象のセッションでした。日本の温泉体験者が何人かいらっしゃいました。こちらでも私の普段の仕事の様子を織り交ぜつつ、講演しました。スタッフの方向けでしたので、浴衣は着るだけでなく、畳み方や、また、紐の仕舞いかたも併せてワークショップの中に取り入れました。紐を五角形にぐるぐると折りたたんでいくのが見ているよりも複雑らしく、な

かなかうまくいかなそうでしたが、中にはいとも簡単に出来る人もいて、皆さん楽しそうに挑戦してくださいました。こちらでも、湯の花体験はとても人気でした。こちら在住の日本人の方々が仲間さんとして働いていて、宿泊施設ならではの色々な意見交換ができたのもとても有意義な時間でした。



翌日は午前中地元メディア3社のインタビューを受けました。午後は一般の方向けのセッションで、ホテルの粋な計らいで、和菓子職人さんの繊細な和菓子や、生け花のディスプレイなど、日本らしい雰囲気漂う会場の中、130名の方々が参加くださいました。タトゥーについて、また、赤ちゃんの入浴についてのご質問も出ました。その他色々なご質問の中、印象的だったものの一つは、「なぜ温泉旅館の布団カバーは真ん中がまるく開いているのですか」というもので、こちらでも初めて気づいた新鮮な発見でした。こちらでも湯の花体験は大盛況で、「この製品はどこで買えますか」と何人もの方に尋ねられました。スウェーデン在住の日本人の方も多くいらして、セッションの後個別にお話させていただき、嬉しかったです。





最終訪問地、ダブリンでの初日は、アイルランド最古の大学でのセッションで一般の方が多く参加され、翌日はアイルランド最大の生徒数を誇る大学でのセッションで、日本文化に興味のある学生さんが中心に参加くださいました。両日ともそれぞれ30名程度の人数で、どちらもアットホームで和やかな雰囲気でした。初日はほとんど日本の温泉に来たことがある方たちで、温泉について良く知っていらっしゃいました。次回行くときのお薦めの温泉地をお聞きになる方もいらっしゃいました。翌日は先の2カ国に比べ、日本の温泉や温泉旅館についてはあまり知らない方が大半で、布団の存在は初めて聞いた方がほとんどという印象を受けました。日本の温泉について少しでもイメージが伝わったら幸いです。



アイルランドでも緑茶は日常的に飲まれているそうでしたが、やはりこちらでも急須と茶葉から淹れるお茶は格別だったようで、にこっと「美味しいです」と仰って頂けたり、お代わりをなさったり、嬉しかったです。湯の花体験はこちらの国でも皆さん面白そうに積極的に参加くださいました。



今回の事業を通じて多くのことを学ばせていただけ、本当に貴重な10日間でした。外務省の皆様初め、関係者の方々、ご参加くださった皆様にお世話になり、心より御礼申し上げます。この体験を踏まえ、日本の温泉文化の未来に、微力でも役に立てるようこれからも日々精進したいと思います。